

本住寺便り

（平成二十五年陽春特別号）



心は三毒ふかく、一身凡夫にて候へども、

口に南無妙法蓮華經と申さば如来の使に似たり

（高祖日蓮聖人・四條金吾殿御返事）

私たち人間は、生きていく限り何かしら望みがあるものです。しかし、限らない欲望は、苦しみをつくり出す要因でしかありません。私たちの思いが五官（眼（視覚）・耳（聴覚）・鼻（嗅覚）・舌（味覚）・皮膚（触覚））の欲を満たすことに振り回されると、物事の真実が見えなくなってしまいます。

この真実を見誤らせるものを「煩惱」といいます。煩惱は五官を通して起こる様々な執着や我欲です。執着と我欲のままに毎日を通すことで心が狭くなり、自分本位になり、物事の正しい判断がなくなってしまうのです。そして、周囲と調和できなくなったり、争いの原因をつくったりするようになるのです。

こうした状態が長く続くと、仕事も行き詰まり、自ら病気や事故災難などを誘発してしまうのです。そして心失って五官を通した肉体中心の欲望に支配されてしまうと、どんどん正しい生き方からはずれていってしまいます。

人の心を毒する三つの根本的な煩惱を仏教では「三毒」といいます。足りることを忘れた欲望をもったり、怒りの心をもったり、愚痴をこぼしたりすることです。高祖日蓮大聖人も冒頭のお言葉で、法華經を受持する者としての自己を三毒未断の凡夫としながらも、要法弘通においては如来使（仏の教えを伝え、私たち衆生を導く者）不輕菩薩に似るものであるとお示しします。

私たちも三毒（貪欲・瞋恚・愚痴）を日常生活の中から取り除いていく必要があります。そのためには、まず足りることを知り、平凡な中に幸福を見出し、日々感謝の思いと笑顔で過ごし、常に謙虚に正しく生きていくことでしょう。

ところが、この世の中は正しく生きることの大変難しい世界です。なぜなら様々な欲望に満ち溢れ、それに惑わされる可能性が極めて高いからです。また、一寸先は闇で先の全く見えない世界ですから、多くの人たちが五官に左右される生活をついつい送ってしまいがちです。だからこそ、仏教に則った修行をする価値もあるというものなのです。春のお彼岸にあたり、一言お伝えさせていただきました。

妙見山 本住寺

倉敷市真備町服部一五八七

〇八六（六九八）九七七〇

ホームページ <http://www.honjuzi.com/>

*仏事に関すること等でお悩みやお困り事がございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。